

令和元年度 保幼小連携地区ブロック活動報告書

- 1 地区ブロック名 南橋 地区ブロック
 今年度のテーマ ポイントとなる姿 (協同性)
- 2 地区ブロックの組織 (ブロック内学校・園・所名)
 ・荒牧小学校 ・桃川小学校 ・認定こども園あおぞら北
 ・たから幼稚園 ・南橋保育所

3 連携推進活動 (実施した交流活動等)

日 時	場 所	内 容
5月16日(木)	総合福祉会館	・保幼小連携ブロック会議 計画立案・情報交換
6月5日(水)	南橋保育所	・保育参観
6月8日(土)	たから幼稚園	・保育参観
6月11日(火)	あおぞら北	・保育参観
6月12日(水)	〃	〃
○10月30日(水)	南橋保育所	・ 地区ブロック研修会 公開保育(9:30~11:00) 情報交換等(11:00~12:00)
11月6日(水)	荒牧小学校	・学校公開
11月13日(水)	桃川小学校	・学校公開
1月18日(土)	あおぞら北	・保育参観
1月25日(土)	南橋保育所	・保育参観
2月1日(土)	たから幼稚園	・保育参観
2・3月中	あおぞら北 南橋保育所 たから幼稚園	・荒牧小学校訪問 ・桃川小学校訪問 ・桃川・荒牧小学校訪問
3月中	あおぞら北 南橋保育所 たから幼稚園	・桃川・荒牧小学校 次年度入学児についての情報交換

- 4 令和2年度の代表校園所【 認定こども園あおぞら北 】

5 これからの保育・教育に生かしたいこと

- 今回は、「協同性」を主として、参観した保育の様子や自校園所の取り組みなどを話し合った。参観した1歳児～5歳児の「買い物ごっこ」では、店員とお客の立場で全ての幼児が関わる活動で素晴らしいものであった。特に、買い物ごっこなので、自然に幼児同士の関りが生まれ、協同性の育成にふさわしいものであった。また保育説明で触れられたように、準備の段階から協同して取り組まなければならない、意義深い活動であることが分かった。実際の活動を見ても、店員は、元気よく「いらっしゃいませ」「どれがいいですか」などと、客と関わる事ができていた。また、店員同士で、「(商品を)並べよう」などと協力して店員を務めていた。幼児同士の関わりを深め協同性を育成する観点から、特に幼児同士の言葉のやり取りが重要と思う。保育者として、幼児同士の言葉のやり取りをどのようにすることを目指しているのだろうか。また、具体的な支援はどのようにするのだろうか。研修を踏まえ、小学校低学年段階では、児童によって無理なく自然に取り組める活動を設定するように努めたい。そして、児童同士の言葉のやり取りや数に親しむ経験、自然や他者に関わる経験を重ね、協同性の育成を図っていきたい。
- 1歳児から年長児までの子どもたちが、「買い物ごっこ」を通して、楽しみながらいろいろな関わり合いを持つことができていました。年長児クラスでは、この日に向けて、たくさんの話し合いを重ね、自分たちの力でできることを考え、たくさんの準備をしてきたそうで、「買い物ごっこ」をとっても楽しみにしてきたことが、様子から伝わってきました。生き生きと店員の仕事をする姿を見ながら、楽しいという気持ちをもたせることは、子どもの意欲を高めることが大切であると感じました。
- 近くにいる先生が、買い物ごっこと一緒に参加することで、商品を売ったり、買ったりする時には、どのような言葉を使えばよいのか、子どもたちは、先生から多くの言葉を学んでいると感じました。また、言葉があまり通じない1～2歳児などに対しても、商品を指さしたり、差し出したりしながら、根気強くコミュニケーションをとろうとする様子も見られ、それぞれの年齢や個性にあったコミュニケーションの取り方があることを、年長児は学べていると思いました。
- 「買い物ごっこ」は、小学校では生活科の「遊びランド」などにつながる内容だと思いますが、小学校でも、話し合いの時間を大切に、楽しい環境の中で友達と協力しながら取り組めるとよいと思いました。
- 「協同性」をポイントにおきながら、見学をさせていただきましたが、随所に本物に見立てたりアリティとアイデアのつまった構成に感動するとともに売り手と買い手のやり取りの中で心も通い合わせながら、園全体で作り上

げられた行事でした。

- お店屋さんごっこでの協同性をテーマに見させていただき、子どもが主体となって子ども同士で話し合い相談したり、やり取りをする姿を見て、なかなか子どもたちだけで物事を進めることは難しいと思いましたが、そこまでいくのに何回も話し合いを進め、十分に時間をとって意識を高めていったことを知りました。何回も話し、意見を交わし合うことで一人一人がどんな考えや思いをもっているのかも分かり自然と仲間意識も高められるのかと思いました。
- 子どもたちが生き生きと活動する姿を楽しく見学させていただきました。協同性を身に付けるためには、年齢に応じた言葉がけや援助、そして何よりも、じっくり時間をかけることが、大切であると改めて感じました。何度も子どもたちと話し合い、一人一人が得意とすることを見つけて自分で考え行動する力こそが子どもたちに身に付けてもらいたい大切な力です。一人一人に合った保育を行うことが子どもたちの成長を促すのだと思います。

